

2019年度  
実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

授業科目名	履修学年	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うか）
看護概論	1	1	大学病院で看護師（消化器・循環器外科）として5年以上の実務経験がある教員が担当し、看護の歴史や理論を通して、看護の専門性、倫理、社会情勢の変化に伴う看護の役割を考える科目である。疾患に罹患した人の身体的・精神的・社会的な変化と援助の視点を教授している。臨床の現場での体験（通常の生活をしていた人が急性心筋梗塞となり入院した場合、救命した後の心臓リハビリテーションの後に日常生活に復帰していく経過）や新聞の記事等を用いて、学生の日常の体験を看護の対象に置き換えて考えられるように教授している。
基礎看護学 援助論Ⅱ (共通看護技術Ⅱ)	1	1	大学病院で看護師として10年以上の実務経験がある教員が担当している。科目責任者は、救命救急の看護師としての経験を活かし、対象の一般状態の観察方法やバイタルサインの正確な測定とアセスメント方法、フィジカルアセスメントの基本技術を理解するための科目である。救命の場面での正確で迅速な五感を使っての観察方法を教授している。また、チームメンバーへの正確な報告連絡相談の重要性についても教授している。
基礎看護学 援助論Ⅴ (日常生活援助Ⅱ)	1	1	病院で看護師・助産師として5年以上の実務経験がある教員が担当し、健康な生活を送るために清潔の援助について学ぶ科目である。おもに皮膚の保護や効果的な清潔援助について指導している。清潔の援助は、入浴介助・清拭・陰部洗浄等プライバシーの保持と保温への配慮が必要となる。科目責任者は、看護師と助産師の経験を活かし、新生児から老年期の発達段階に合わせた清潔の援助の経験が豊富である。
老年看護概論	1	1	大学病院で看護師（神経・血液内科）として10年以上の実務経験がある教員が担当している。老年看護の対象を取り巻く環境や保健医療福祉対策を理解し老年看護の役割、加齢に伴う機能低下について考えさせ理解する科目である。入学前の祖父母との同居は、約1割と少ないため「身近にいる高齢者」のライフヒストリーを活用し高齢者の人生についても教授している。科目担当者は、加齢に伴う疾患のある高齢者や神経疾患を持ちながら認知症も併発している高齢者の援助の体験からコミュニケーション方法や生活面での指導方法のポイントについても教授している。
精神看護学 援助論Ⅲ (精神援助論演習)	2	1	主に精神科の病院で看護師として5年以上の実務経験がある教員が担当している。こころの健康について考え方の障がいを持つ対象に対しての生活の質に応じた援助方法を理解する科目である。担当教員は実務経験を活かし、精神疾患患者への接し方や人権を尊重する重要性も教授している。また、紙上事例を作成し患者のストレングス（強み）に学生が着眼し、援助ができるように指導している。
小児看護学 援助論Ⅰ (子どもの健康増進の看護)	2	1	大学病院の総合周産期センターの看護師として10年以上の実務経験がある教員が担当している。小児の成長・発達過程を理解し健全な成長発達を促すための援助方法を理解する科目である。担当教員は新生児集中ケア認定看護師の資格も持ち、新生児からの成長発達の支援や家族への支援方法についても実践を踏まえ教授している。総合周産期センターでは、低出生体重児の看護とともに母親への心理的援助や母乳の搾乳方法などの指導も行っており、子どもの生命の保持とともに家族への育児意欲の保持への援助も行っており、学生に生命の尊厳についても教授している。
母性看護概論	1	1	大学病院で助産師として10年以上の実務経験がある教員が担当している。「母性」とはなにかを、身体的・心理的・社会的側面から理解し、生涯にわたる母性の健康の維持増進について理解するための科目である。担当教員は、分娩介助の経験も豊富であり生命誕生の臨場感を伝えることができる。また、アドバンス助産師の資格も持ち、多数の母子の健康の保持等も含め広い範囲にわたっての知識や技術も教授している。
母性看護学 援助論Ⅱ (周産期の看護～妊娠から分娩期)	2	1	大学病院で助産師として10年以上の実務経験がある教員が担当している。妊娠・分娩期における母性の身体的・心理的・社会的特徴と母性の発達、胎児の生理・発達を理解し看護について学ぶ。また、母体・胎児の異常について理解し予防のための看護について理解する科目である。演習では、分娩時の母体・胎児の観察項目や援助方法を具体的に教授している。安全な分娩のための援助方法を具体的に学生に伝えることができる。
在宅看護論 援助論Ⅰ (日常生活援助)	2	1	大学病院で看護師（循環器外科・内科）として7年以上の実務経験があり、訪問看護ステーションでの研修を受けた教員が担当している。在宅療養者とその家族の生活を理解したうえで、在宅療養生活を送るための日常生活の支援方法を学ぶ科目である。在宅療養に移行する際の在宅医療を含めた生活の支援方法や社会資源の活用方法について教授している。急性期病院の循環器病棟の経験を活かし、急性期病院であっても急性期のみの援助だけでは不十分であり、入院前のその人らしい生活や退院後の希望をよく聞きながら、入院時から生活面・医療処置について指導することで合併症を予防し、在宅療養を継続できることを教授している。
合計単位数		9	